

市長から 市民のみなさんへ 44



山陽小野田市長 白井 博文

前号に引き続いて19年度予算案について述べさせていただきます。今回は主に2つの数字の持つ意味から山陽小野田市の財政の現状をお伝えできればと思います。

実質公債費比率・・・23.1（見込み）

「実質公債費比率」は、地方自治体の借金の負担割合を表すものとして、平成18年度に新たに導入され、財政の健全化の指標となっています。「18パーセント」をこえると黄信号、「25パーセント」をこえると赤信号となり、新たに起債（借金）をしようにも許可されず、事業をすることができない事態が生じます。本市の新年度予算案は、平成18年度の「23.7パーセント」から多少の改善はしたものの、県内では最悪の状況にあり、まだまだ予断を許しません。「25パーセント」手前の、まさに崖っぷちに踏みとどまっている状態です。このため平成19年度予算案では、これまでの“借金も財源”という意識は捨てて必要不可欠な事業のみを厳選し、市債の借入額を抑制しました。しかしそれでも数値があまり改善しないのは、国から地方自治体に交付される地方交付税が大幅に減額される中、大量退職期を迎え、退職手当債が増え続けるためです。退職手当債とは、多くの退職者を抱え、退職金をその年度の財源で賄うことができない場合、県の許可を得て借り入れることができる市債のことです。本市では市役所全体で、昨年の約60人に続き、今後しばらく50人前後の退職者が見込まれていて、この市債を活用せざるを得ない状況です。今後の国の施策（地方交付税の増減）にも左右されますが、平成19年度予算案のように借入額を可能な限り抑制し、実質公債費比率の適正化に努力していくつもりです。

経常収支比率・・・98.9（見込み）

収入に対して、人件費、公債費（借金の返済）、福祉などに使う扶助費など義務的経費の割合を示す「経常収支比率」ですが、平成19年度予算案では、そのような経常的な経費に歳入のほとんどが費やされるため、市長が裁量で使える政策的経費はほとんどゼロという事態となりました。（100に近いほど財政の硬直化を表しています。）ただし人件費については、引き続き職員の給料5%カットを行うとともに、これに加えて今年1月から導入された地域給（※1）により5年間で段階的に約5%の給与の削減が始まっています。人件費の数値を示すラスパイレス指数（※2）は96.0と県内で最も低くなっています。それでも福祉面では、必要としている方に必要な援助を行いたいと考え、苦しい予算の中でも、ほとんど減額は行いませんでした。

今こそ「知恵」を

苦しさばかりを強調しましたが、こういうときだからこそ、ソフト面で、例えば小学校の「生活改善・学力向上プロジェクト」（早寝、早起き、朝ごはん）のような、比較的小金のかからない事業で市民のみなさんのお役に立てるように平成19年度もがんばっていきたいと思っています。現在、市職員のプロジェクト（行財政改革推進）チームから大胆な改革案をたくさんもらい、私も斬新的なアイデアについていくのが精一杯といった状態です。「こういう時だからこそ何とかしていこう、工夫すれば何とかできるのではないかと」前向きに取り組んでいる職員が数多くいることをうれしく思っているところです。

現実には危機的状況には違いありませんが、臆することなく、ソフト面に特化して、つまり市民の心を豊かにしていくような取組みをどんどんすすめていくつもりです。そして、そのために必要なアイデアを市民のみなさんとともに出し合っていけたらと思うのです。“今こそ「知恵」を”平成19年度は山陽小野田市が試される一年になるような気がします。

（※1）地域給

地域ごとの民間賃金と公務員給与との格差を是正することや、公務員給与の年功的上昇を是正するため、人事院が勧告した給与構造改革のこと。

（※2）ラスパイレス指数

市の一般行政職の職員の給料額と、国の職員の給料額とを、学歴別、経験年齢別に対比させ、国を100として比較算出した指数。

対話の日

※いずれの会場も19:00から



3月 8日(木) 西善寺公会堂
3月22日(木) 北竜王自治会館